

民主青年新聞

●ホームページ www.dylj.or.jp ●Eメール minsins@dylj.or.jp

見どころ

科学的社会主義の学び

(6、7面)

新国立競技場問題

(3面)

原発再稼働と火山

(10、11面)

安倍政権揺るがす

民主主義新たに

全国にとどろく青年の声と行動が、安倍政権を震撼させています。戦争法案に反対して空前の規模で広がるデモや抗議行動は、6、7月の青年中心のもので24都道府県(7月30日現在)に上ります。衆議院での強行採決を受けた国会前の抗議行動(7月15、17日)には延べ19万人が参加。参加した青年は、政治の主体は自分たちだとそれぞれの言葉でうたえます。行動の広がりには日本の民主主義の新たな発展の可能性を示しています。(文中は一部仮名、日隈広志記者)



シールズの国会前の抗議行動(7月31日)

全国に広がる「戦争法案ノー」

日々の幸せ守りたい

7万人が結集した7月24日の「安倍政権NO! 首を切る」首を切る。好きな人に教えるも相官邸包囲(主催は安倍政権NO!実行委員会)聞かずに。私はこうい

「スピーチで「底知れない怒りと絶望を感じている」と安倍首相への手紙を読んだSEALDs(シールズ)自由と民主主義のための学生緊急行動)の芝田万奈さん(大学3年)の声は風のように、熱気渦巻く国会前を吹き抜けた。

「被爆国として、軍隊を持たない国として、憲法9条を保持する国として、私たちは平和について真剣に考え、構築し続ける責任があります」「ベビーカールに乗っている赤ちゃんが私を見て、まだ歯が生えていない口を開いて笑ってくれるおぼあちゃんに『ありがと



▲安倍首相への手紙を読む芝田さん(檀上)

法案に反対する行動を開始。スピーチやコールなど行動の様子は写真や動画でSNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)を通じて広がり、初め千人規模だった行動は回を追うごとに増えていきました。

首相官邸包囲に参加した男性(大学2年)は「汗と熱気と叫びが混じり合って圧倒された。それだけみんな怒って、うったえたいことの表れ」と言います。大抵、青年が政治の主人公としての自らの力を実感でき

政権への怒り全国に

国会審議では、法案の違憲性が浮き彫りになりました。政府は「後方支援」「武器の使用」など国際的に通用しない造語を使って法案の違憲性をこまそうとしました。「後方支援」

の実際は「戦闘地域」で弾薬の補給や武器の輸送を行うもので、兵たん「ロジスティクス」と呼ばれま

す。衆議院の審議で日本共産党の志位和夫委員長から追及された安倍首相は、「戦

闘地域」での「武器の使用」を認めました。それは憲法が禁じる自衛隊の海外での戦闘になります。

どの世論調査でも国民の5割以上が「違憲」とし、大多数の憲法学者が「違憲」と断る中、追い詰め

内閣不支持率、軒並み上回る

	支持率	不支持率
毎日	35%	51%
共同通信	37.7%	51.6%
ANN	36.1%	47.0%
朝日	37%	46%
FNN	39.3%	52.6%
読売	43%	49%
日経	38%	50%

ではないずれも内閣の不支持率が支持率を上回りました(右表)。

強行採決への怒りは全国に広がりました。熊本では「国会前や渋谷のようなデモをしたい」という青年ら